ESRI統計より：景気統計

機械受注統計調査(外需)の機種別にみた動向について

経済社会総合研究所景気統計部
濵砂 優希

1. はじめに

内閣府経済社会総合研究所景気統計部で作成している統計調査として、機械受注統計調査（以下「機械受注」という。）がある。機械受注とは、毎月国内の主要な機械等製造業者の受注状況を調査し、設備投資動向を早期に把握することを目的とした統計である。本調査では、需要者別（誰が発注したか）及び機種別（どのような機械を発注したか）に分類した受注額を調査している。調査の中では、需要者別受注額の一つである「民需（船舶・電力を除く）」からの受注額が民間企業設備投資の先行指標として最も注目されているが、本稿では、海外の需要者（日本企業の海外支社等も含む）からの受注である「外需」受注額に着目し、その最近の動向について紹介することとしたい。外需受注額については、受注総額において比較的大きなシェアを占める中、足下で回復傾向にある。

2. 最近の外需の動向

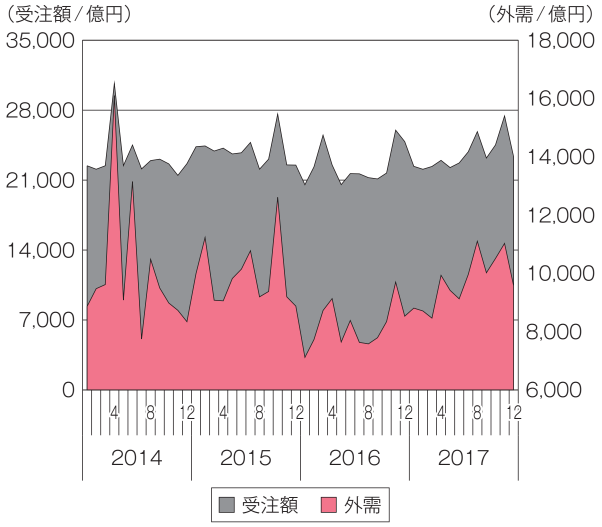
2017年の外需受注額は、機械受注における受注全体の約4割を占めている。その動向をみると、2015年終わりから2016年初めにかけて減少し、その後、低水準で推移したが、2016年後半からは緩やかな増加傾向にある（図表1）。

2017年の外需の機種別受注額を大分類別にみると（図表2）、「産業機械」「電子・通信機械」「原動機」が受注額の約7割を占めている。これら3機種について時系列の動きをみると（図表3）、2016年半ば頃から「産業機械」及び「電子・通信機械」が緩やかな上昇基調にあることが分かる。一方、「原動機」については大きな変化がみられない。

3. 機種別中分類でみた外需の動向

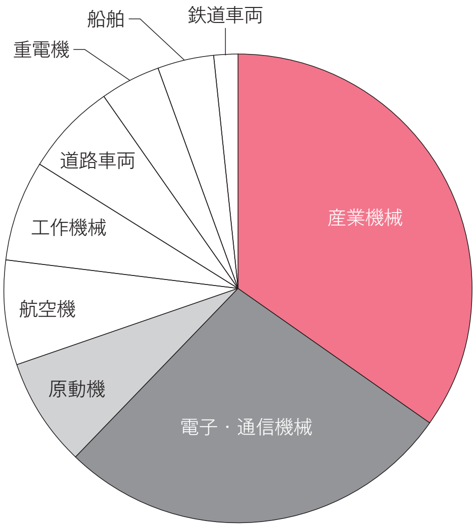
次に、外需受注額で最も割合が大きい「産業機械」を中分類別にみると（図表4）、「建設機械」「産業用ロ

図表１　受注額合計と外需受注額の推移



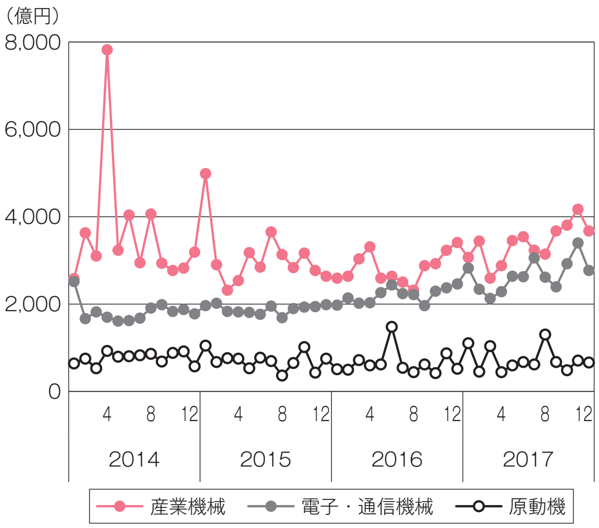
（注）いずれも季節調整値。

図表２　外需の機種別受注額の割合（2017年）



（注）いずれも季節調整値（内閣府による試算値）。

図表３　外需の機種別大分類上位３機種の時系列の推移



（注）いずれも季節調整値（内閣府による試算値）。

ボット」「運搬機械」が「産業機械」の受注額の約6割を占めている。これら3機種について時系列の動きをみると（図表5）、「建設機械」は2016年下旬から上昇傾向にあり、「産業用ロボット」は2016年上旬頃から緩やかに増加している。一方、「運搬機械」については堅調に推移している。

「産業機械」の外需受注額に最も影響する「建設機械」について、この上昇傾向の要因としてインフラ整備や住宅建設で北米やアジアを中心に建機需要が高まっていることが考えられる[1]。中国については高水準のインフラ整備が続いている為、今後も堅調に推移すると思われる。

また、「産業用ロボット」については特に中国で人件費が高騰し、省力化投資のニーズが高まったことと、環境規制等が影響し日本製ロボットの需要が高まったことで外需が伸びたと考えられる。

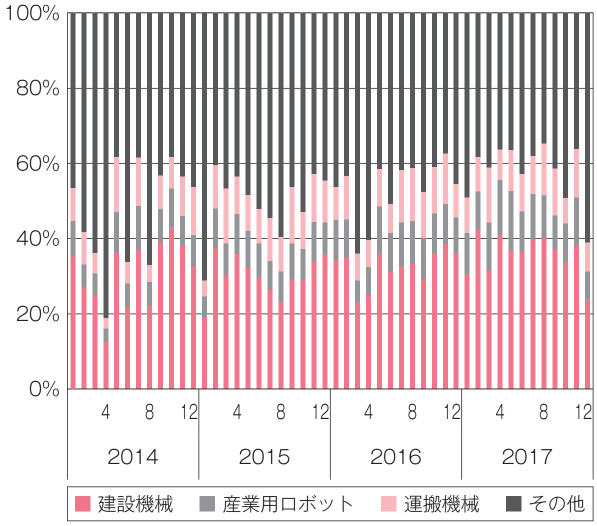
4. おわりに

機械受注において、外需受注額の増減は「産業機械」が最も影響する。その「産業機械」の大半を占める「建設機械」について、今後は外需の動向が重要になると思われる。

機械受注において、外需の動きに着目する機会は少ないと思われるが、本稿がより機械受注への関心を高めるものとなれば幸いである。

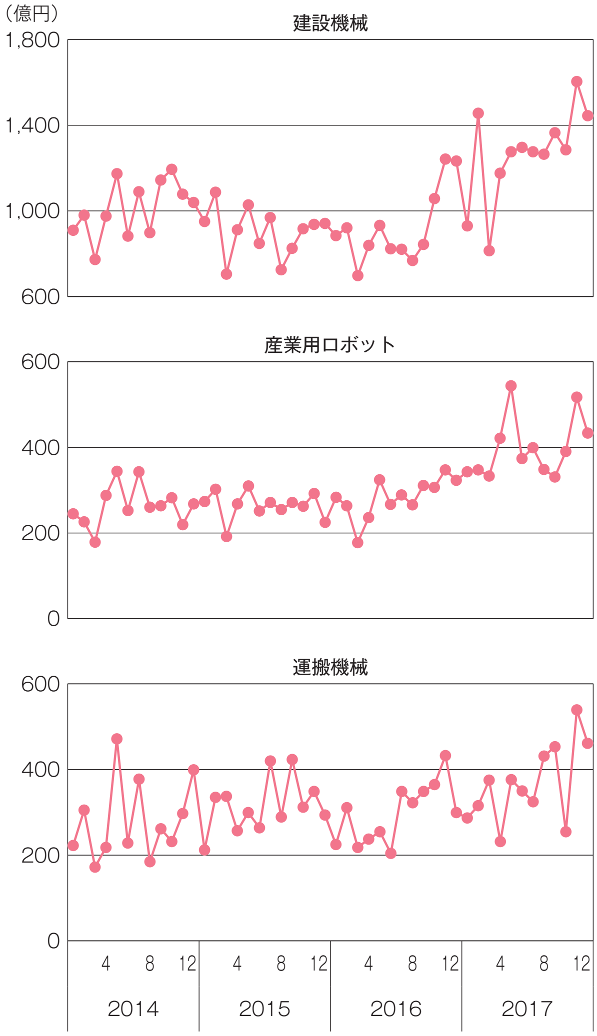
濱砂 優希（はますな ゆき）

図表4　外需の「産業機械」中分類の推移



（注）いずれも季節調整値（内閣府による試算値）。
（注）「その他」＝「建設機械」「産業用ロボット」「運搬機械」以外の「産業機械」中分類の合計値。

図表5　外需の「産業機械」中分類の時系列の推移



（注）いずれも季節調整値（内閣府による試算値）。

1　国内の「建設機械」は2017年1－3月頃に排ガス規制強化前の駆け込み需要により好調であったが、その反動で減少傾向となった。国内の「建設機械」には今のところ増加する要因がない為、米国や中国向けの外需の堅調さが2018年以降も続くかが、「建設機械」全体の受注額に影響してくると思われる。